

棚田に吹く風



9 2011
月号
Vol.78
隔月刊

2 特集

震災。 そして棚田で 考えること。

5 フォトエッセイ
棚田のすがた

6 棚田・里山からのたまり
中越大震災からの復興、
そしてもう一度「村に明るい笑い声を！」
新潟県長岡市川口木沢

8 棚カフェレシピ
田んぼの生き物たち

9 棚田博士は今日も行く
高原山の東麓、
山県第二農場の棚田
栃木県矢板市平野兵庫畑

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき

15 Project Report

震災。そして。棚田を 考えること。



東日本大震災、それに伴う広範な地域での地震活動、そして原発。3.11以降、私たちの価値観や行動原理を、根底から考えなおすことが求められています。私たち棚田ネットワークは、今こそ、「棚田」で未来を考えていきたいと思います。

天水島留守原の挽歌

棚田ネットワーク会員 萩谷 敦

「留守原は萩谷さんのマイ棚田ですね」と棚田ネットワークの高野さんが言われた。留守原とは新潟県十日町市松之山の国道405号線下にある天水島留守原の棚田だ。私と留守原のお付き合いは長くない。3年前の9月、ドライブの途中で偶然見つけたのだ。優雅な地形、青い空、浮かぶ白雲、茅葺き小屋の佇まいに一目惚れした(写真1)。

それから松之山に行く度に留守原を覗いた。国道405号は冬期閉鎖。4月に雪が溶けても通行止めの看板が残る。入るのはお百姓さん、そして私。4月の留守原はスピンだ(写真2)。写真3は5月田植えの時期の留守原。棚田の所有者の老夫婦は数年前に亡くなった。松之山

生まれて松之山写真の第一人者といわれる佐藤一善さんは、少年時代その老夫婦の農作業を手伝い茅葺小屋にも泊まった。「オジイサンがいたころは畦に雑草なんかなかったよ」と佐藤さんは昔を懐かしむ。右奥の細長い田圃も昔はもっと円い小さな田圃が沢山並んでいた。圃場整理で大きくなったのだ。

留守原の棚田が一番美しいのは稲刈り後田圃に水を溜めた11月頃だそう。

一昨年11月に撮影した写真4は、田圃に水が張ってあれば対岸の紅葉が水面に映り込んでもっと美しくなったはずだ。来年こそはと思っただ、去年秋は松之山に行けなかった。

11月終わりに初雪が降った後の留守原が素晴らしいと佐藤さんは言う。しかしそれもまだ撮っていない。雪が積もると留守原は冬眠する。今年の3月11日、地吹雪を衝いて松之山に行った。佐藤さんの事務所に着いた時、地面が揺れた。東日本大震災だった。急遽帰京を決めた。交通渋滞で車中泊した。早朝車が揺れた。長野新潟大震災だった。松之山も大きな被害を被った。5月に雪が溶け、留守原も大損害を受けていたことが分かった。

6月18日、久しぶりに松之山に行った。佐藤さんに会った。「留守原の柵田は抜けて（崩落して）しまった。車は入れないが歩いてなら行ける、茅葺き小屋は残ってるが、その傍には近づかない方が安全だ」

その夕方、矢も楯もたまらず出かけた。国道405号線は留守原の手前2キロくらいいところで通行止。それをすり抜けしばらく走った。現場から500メートルほど手前のトンネルの入り口に車をおいた。カメラを1台だけ持って現場まで歩いた。現場の手前数十メートルの路上に通行止めの柵があった。

その数メートル前方で道路が突然無くなる（写真5）。そこまで恐る恐る前進した。谷底まで一挙に抜けてはいないので、落差は思ったほど大きくない。地震の前、国道はそこから一旦右に進み直角に左折して写真5に見える正面の岩壁に沿った道につながっていた。当時はその

上に三脚を立てたものだ（写真6）。

右前方20メートルほど先に国道405号の続きが残っていた。道路の切れ目から数メートル手前に、お百姓さんが田圃まで下りる小道が残っていた。それを歩くとさらに小屋に近づけた（写真7）。幸い小屋は残されていた。しかしその手前の柵田は地割れを起こし、乾いた表面には雑草が生え始めていた。

留守原柵田の損害状況は、先ず国道の上の崖が地滑りを起こし、道路と擁壁を押し流し、数本の杉の太木を根こそぎにして柵田の上部に崩落させた。さらに、私の立ち位置からは見えなかったが、茅葺き小屋から下にあつた数枚の柵田が一挙に抜けたとのことだった。

国道405号線はいずれ復旧されるだろう。留守原柵田も多分。



昨年7月に撮影し、柵田ネットワークのフォトコンテストで入賞させていただいた「シシウド咲いて」という写真を使って絵葉書を印刷した（写真8）。

「この写真は貴重ですよ。留守原が修復されてもこれと同じ写真は未来永劫に撮れないんだから」「でも私は悲しくて、今はもうあの茅葺き小屋にレンズを向けられません」と、この絵葉書を見た佐藤さんは言われた。



震災。 そして 柵田で 考える こと。



「柵田」が、みんなの出会う場所に！

震災ボランティアで感じたこと

柵田ネットワーク会員 Chie

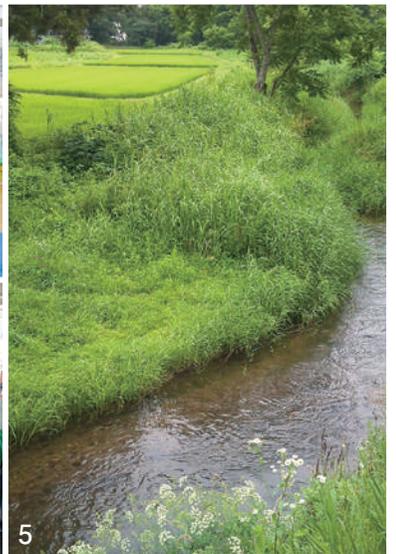
柵田ネットワークには2年ほど前に初めてお伺いして、茂木で田植えと収穫を体験させていただいています。今年の田植えのバスでは安井さんと席が近くになり、震災についていろいろ話をしました。そして被災した田んぼのために、柵田ネットワークとして沿岸部を支援できないかと考えるようになりました。

沿岸地域へのボランティアは3度参加しましたが、仮設住宅にお住まいの方と話をしたなかで、「前は畑があったから毎日忙しかったけど、今は畑も流され何もすることがない」というお声がありました。ノウハウをお持ちの方がいらっしゃるのに地元では作業ができず、一方で他の地域では耕作放棄地や過疎が問題となっています。東京では支援したい人や学びたい人が大勢います。

そこでそれぞれのニーズを埋めるのに、みんなが出会う場所があればいいな、と思いました。被災地域で稲作経験がある方を内陸や他県にお招きして、耕作放棄地の稲作活動をして活性化をはかると共に、都会の方にも田舎暮らしを体験していただくような場所。または被災した田んぼを、知識のある方が長期的にサポートできるような仕組みづくりなどがあれば…。

まだ自分にできることがはっきりと見えていないため、現在は遠野まごころネットで長期ボランティアをしながら勉強させていただいています。とにかく、みなさんが安心して寛いで生活できるようになればと、遠野の美しい田園風景を見ながら切に思っています。

1: 陸前高田にて / 2: 陸前高田 避難所で足湯を / 3: 陸前高田 小友町の公民館・資材倉庫の泥出しと掃除
4: 気仙沼 水揚げ用の箱にこびりついた重油・泥を洗う / 5: 8月1日、遠野にて





大島の棚田

戦後、工業国として栄えてきた日本ですが、それは農業が営々と育て貯金してきた空気、水、山林、田畑、そして人々のお陰であったのではないのでしょうか。

工業企業は、農業の長期にわたる貯金である清い空気・水を食いつぶしつつ、汚染し続け栄えてきたのではないのでしょうか。工業発展のあまり、工業万能・経済優先などと声高に叫びつつ、水田耕作放棄への道を歩むのは全体像を見ているとは思えません。

近年、諸外国の人々は、日本の工業製品ばかりではなく農産物にも注目している様子が見えませんが、農業・工業のバランスよい発展を願いたいものです。

写真は長崎県平戸市あつち的山大島の棚田です。暑い陽射しでしたが、海風を受けつつ静かに稲刈りする農夫の姿を見ながら、遠い日を思い出しシャッターを切った次第です。



Profile



永田 博義 ながた ひろよし

1938年、長崎県佐世保市生まれ。東京電機大学大学院修了。1956年、アルバイト先でDPEに興味を持つ。1976年、写真家・前田真三氏に邂逅し指導を受ける。1980年、東京都職員写真展特賞受賞。2003年、ポストカード「遺産 日本の棚田I・II」出版。2004年、写真雑誌『日本フォトコンテスト』において「遺産 日本の棚田」を1年間連載。現在、全国の棚田をはじめ農村風景を撮影している。千葉県在住。棚田学会会員。

- 個 展 2009年「日本の棚田」 富士フィルムフォトサロン東京、同・大阪
- 写真集 「本土寺の四季」(1984) 「備楽園逍遙」(1997)

棚田のすかた

写真と文
永田 博義

棚田・里山
からの
たより



中越大震災からの復興、そしてもう一度 「村に明るい笑い声を！」

新潟県長岡市川口木沢

記憶にまだ新しい平成16年10月23日に発生した「中越大震災」。

記録的な被害を受け、野も山も田や畑全てが全滅し、震災から復旧までに3年の月日が掛かりました。集落から1⁺離れた場所が中越大震災の震源地として、今でも多くの人達が訪れています。

長岡市川口木沢の世帯数は35軒・平均年齢65歳以上の67人が暮らす小さな集落に私達の棚田はあります。標高400⁺の雪解けの春には豊富な山菜の宝庫。夏には八海・銀山・駒ヶ岳で知られる越後三山から吹きぬける風により町場との温度差は2⁺度ととても涼しく、秋には棚田が黄金色に輝き、8⁺の高さにもなるハザ掛け稲のカーテンが揺らぎます。冬には積雪量が4⁺層にも及ぶ指折りの豪雪地帯です。四季折々に見せる景観はとても素晴らしく、来る人を魅了します。

震災をきっかけに世帯数は激減し、子供達の姿も消え、村に明る

い声が途絶えました。農業の後継者も少なく高齢化が進んでいた中、木沢集落の美しい自然と、豊かな環境を次の世代に残し繋げていき、もう一度「村に明るい笑い声を！」という強い思いから棚田保全協議会を立ち上げ、木沢棚田オーナー制度が出来ました。

震災後3年ぶりの稲作に不安もありましたが、震源地だった強いエネルギーを持つ土地ならば、そこに根付くパワーは並大抵なものではないと確信し、歩みだしました。

1年目は県内外から12組のメンバーが集まり、2日間で106人もの人で田植えをこなし、夜は交流会で大変盛り上がり、久しぶりに棚田に沢山の笑顔と笑い声が響き渡った感動を今でも覚えてます。

会員は3時間以内で来られる所から募集し、意外に若者が多い事にビックリしました。

春の田植えが終わると1ヶ月に



上:木沢の風景/下左:8mものハザは稲のカーテン/下中:夏の管理が味の決め手。草刈り、草取りに励む/下右:ぬか釜で炊いたご飯はおいしい!

1回、会員達は田んぼに足を運び自分達で田を管理しながら愛情をたっぷり注いだの稲作りに励み、村の人達と共に会話や交流を楽しんでいました。

6月から8月までは草刈り、8月のお祭りには花火を見ながら焼肉とビールで乾杯！帰り際には村の人達から新鮮な採れたての野菜を頂き、車いっぱい詰めて田舎の夏を満喫し楽しいひと時を過ごしています。

9月には春から育て上げてきた稲が黄金色に実り収穫期を迎えます。刈り取った稲は自然乾燥、ハザに掛けた稲のカーテンが出来上がりとてもいい香りです。

稲刈りも80人から100人位で一斉に取りかかり、山では笑い声が絶えません。

10月にはハザから稲を取り外し、脱穀・精米します。そして11月にはお米の引き渡し。この時ばかりはみんな嬉しそうな顔で朝早くから東京・栃木・新潟市から1泊2

泊で集まってきました。

雪の降り積もる1月から2月いっぱい、豪雪体験！高齢者のお宅に伺い雪下ろしを3年間やらせてもらい、集落の方には大変喜ばれています。

雪下ろし作業の後は、一緒にお茶を飲み会話も弾み雪下ろしの手間は秋に採れた野菜と交換です。夜には頂いた野菜を使った料理が食卓を飾りテーブルいっぱい並びます。

現在では木沢集落の豊かな自然や先祖から大切に守り続けてきた棚田での米作りを通し、わら細工や郷土料理を途絶える事なく次世代に残し伝える為に、子供達とお

年寄りとの交流に努めています。

1人暮らしのお年寄りが気軽に話や相談ができる場所や、年齢性別などを超えて県内外から来た人が集える場所、村の人と若年層との交流の場として、集落の有志3人で「木沢里山食堂」を今年の6月に開店しました。木沢で穫れた野菜や地元のそば粉を使います。

田を耕し、米を作り、食を知る。米作りから、これからの日本のあり方を学ぶ場所だと感じています。これからも、より多くの人達に木沢集落を知ってもらい、自然豊かな景観と、棚田を守り続けていきたいです。

木沢棚田保全協議会 平澤 勝幸



がんばれ父ちゃん!

■ 木沢棚田へのアクセス

【公共交通】JR越後川口駅からタクシーで約10分

【自動車】関越自動車道越後川口インター→県道83号線→県道71号線で約20分

■ お問い合わせ

木沢ハウス 代表 平澤 勝幸
Tel.0258-81-5922

農家民宿 木沢ハウスホームページ
<http://kizawahouse.ina-ka.com>



左：ボクも植えたい／右：みんなで植えれば楽しい

棚田のっておき

棚カフェ レシピ

Vol.2

棚田地域で
手に入れた食材に、
ちょっと手を加えて…
創作料理の完成♪



真夏の佐渡、日本海を見下ろす棚田のある岩首で、とても涼しげな郷土食材を見つけました。

「いごねり」は、乾燥させた「いご草」という海藻を煮詰めて固めた、寒天やとろろのようなつるつるした食感の伝統食材。海藻の風味が清々しく、地元ではネギと生姜を薬味にお醤油でいただきます。

今回は山と海をつなげる「岩首棚田」をイメージして、松の実をあしらったアジア風のサラダにしてみました。ポイントのたっぷりパクチーとレモンが、アジアの夏の蒸し暑さを爽やかにしてくれます。いごねりの分量を増やせば、冷麺のようにも食べられます。

■材料：いごねり（きしめんのように切る）、玉ねぎのスライス、千切りきゅうり、プチトマト、松の実、パクチー、レモン、ドレッシング（ごま油、醤油、塩、コショウ）

佐渡産いごねりと 松の実のモンsoonサラダ

新潟県佐渡島の地元素材使用



田んぼの 生き物たち



第27回 ニホンマムシ



日本に生息する代表的な毒蛇、マムシ。農作業をする方にとって、最も出会いたくない生き物の一つでしょう。私が住んでいる町でも、見つけたら草刈機やカマで即成敗というのが当たり前になっています。

そんな嫌われ者のマムシですが、

私たち夫婦は今年、ようやく生きたマムシの撮影に成功しました。かかった年数は実に7年、地元の方のご協力により実現できました。それまでは、交通事故死体や、草刈機で頭を落とされたもの、既に焼酎に漬けられたものと、なかなか生きた野生のマムシにレンズを向けることができませんでした。そんな時に、届けられたマムシに、私たちは喜んで深い衣装ケースの中で



撮影：桐原佳介

撮影をし、記録を取ることができました。噛まれたら大変なことになる危険生物ですが、思いの外ちゃんと姿を知っている人は少なく、以前はアオダイショウの幼蛇の死体が持ってこられ、これはマムシですか、と聞かれたこともありました。

危険な生き物とそうでない生き物をちゃんと識別することは、里山・山里に棲む生き物たちとの付き合い合いに、工夫や知恵を生んでいきます。多種多様なへびがいることは豊かさの証。むやみに恐れず、正しい知識で向き合っていければと思います。

(自然観察指導員 桐原真希)

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

高原山の東麓、山県第二農場の棚田

栃木県矢板市平野兵庫畑



なかしま みつひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会
長。全国棚田(千枚田)連絡協議会理
事、棚田サミット開催地選定委員会委員
長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大
学教育学部地歴科卒。2004年まで早
稲田大学教育学部教授。著書に『日本
の棚田—保全への取り組み』『百選の棚
田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

よく手入れされた 土坡の美しい棚田へ

平野の兵庫畑へは、矢板駅前か
ら1日5便、市営バスの運行があ
る。バスは市役所前を通り、県道
30号の塩原街道を北上する。市街
地を抜け視界が開けると、西に雪
を頂いた日光の山々と高原山が姿
をみせる。

しばらくして、昭和の大合併ま
で泉村の役場があった泉の交差点
を左折、県民の森・八方ヶ原へ向
かう県道56号に入る。高原山の前
面に広がる丘陵地を浸食して流れ
る天沼川に沿う道を西へ。谷底平
野が終わり、棚田地域に変わると
ころに兵庫畑のバス停がある。

棚田は、その大部分が散居とし
て入植した8戸の農家に囲まれて
おり、天沼川の右岸、高原山の山

矢板市は那須野に接する関東平
野の北辺にある。平野の兵庫畑は、
矢板市の西北部、古い火山の高原
山の東麓にあり、明治の元勲・山
県有朋が所有した山県第二農場に
拓かれた棚田である。栃木県中山
間地域活性化推進協議会と栃木県
農務部農村振興室が認定した「残
したい栃木の棚田21」に選ばれ、
棚田オーナー制が立ち上げられて
から知られるようになった。

2010年、高原山に雪が残る
3月に矢板市兵庫畑を訪ねた。早
朝自宅を出て上野から快速ラピッ
ト号に乗り、名峰筑波山を右に見
ながら関東平野を北進。宇都宮で
黒磯行きの普通列車に乗り換え、
さらに北へ向かうと、4つ目の駅
蒲須坂を過ぎたあたりから関東平
野を限る丘陵が現れ、やがて矢板
に到着する。

麓部分に当たる傾斜12分の1の斜
面に拓かれている。面積11・7畝、
幅250m、長さ850mの長方
形の団地に約100枚の棚田があ
る。団地の中央を北西から南東に
かけて農道が走り、その両側の谷
側と山側に分かれて分布。谷側の
棚田は、川の流れに沿い上流から
下流に向かって階段状に並んでい
る。形状は長方形に近い。下流部
は4段、各段1枚ずつ、1枚の面
積が15〜20坪はあり、それぞれを
分ける土坡の高さは1坪ほどであ
る。中流部は5段、各段が2区画
に分かれ、道路側が大きく、1枚
の面積が5〜10坪、反対の谷側は



1 / 整備された長方形の棚田
2 / 田圃の横に鯉幟が
3 / 用水のバルブ
4 / 兵庫畑で見かけた鳩小屋

3〜5㍎の広さで、段高は1・5㍎ほど。上流部は民家を挟んで6段と7段に分かれ、6段は最下段の広さが8㍎の1枚を除き3〜5㍎、7段は2〜3㍎の広さで、土坡の高さは2〜3㍎はある。

これに対して、山側の棚田は山際から農道に向かう上流部と、川の流れに沿って上流から下流に向かって段になっている下流部に分けられる。上流部の棚田は、山際から見下ろすと、手前に広さが20㍎ほどの長方形をした棚田が2段、その先に3〜4段、広さが2〜10㍎とばらつきのある棚田が9枚ほど見られる。これらの両側にはそれぞれ3〜5段の棚田がつながっている。広さが3〜4㍎のもの

5枚、5〜8㍎が3枚、10〜15㍎が4枚ほどあり、段高は山際で3㍎、農道近くでは1㍎ほどである。

広さが20㍎、段高が2㍎にもなると土坡の占める面積が大きく草刈りの作業が大変になる。それにも拘らず、よく草が刈られているのですっきりとした土坡になっている。一方下流部の棚田は10枚ほど、1枚が25〜40㍎と大きく、1㍎以下の低い段高で広がっている。全体としては、1枚の面積が大きく、区画が直線的であることから畝町直しの整備が行われたことを窺わせる。年に4〜6回も草が刈られているので土坡が美しい。見苦しい放棄地がほとんど見当らず、しっかりと耕作されている棚田である。

棚田にそよぐ鯉幟で獣害対策

兵庫畑では、棚田オーナー制や山間地域等直接支払制度の代表を務める野瀧勝さんに会った。野瀧さんは69歳、65歳の奥さんと2人で暮らしている認定農業者、地区のリーダーでもある。学校を終えて、兄から貰った2畝の水田を耕作しながら40歳まで営林署に勤務。それから大

学に進学した長男の学資を稼ぐため、営林署を退職、ウシを飼い始めたそう。現在は所有する水田2畝のほか2戸の農家から借りている水田3畝を耕作、うち3畝で水稻、2畝を転作田にして牧草を栽培し、繁殖牛8頭、育成牛10頭を飼育する専業農家である。

所有する水田2畝は、1960〜70年代に個人の力で業者を入れ、3枚を1枚にする畝町直しを行い19枚に。1枚の平均はおよそ10㍎、工事費は10㍎当たり20万円を要した。平担地の圃場整備では90%近くの補助金が出るのに棚田を個人で整備しても何の助成もないというのは不公平な感じがする。それでも、畝町直しを行った結果、トラクター（33馬力）、乗用6条田植機、乗用5条刈コンバインなど大型機械の利用が可能になった。大型のトラクターを利用すれば3畝の水田の耕起も3日で片付けることができる。畦塗りは畦塗機、薬剤散布は動力噴霧器を使用。両者はそれぞれ60万円で共同購入し、8戸で順番に利用されている。

野瀧さんの棚田の横ではイネが田圃にある間、鯉幟が泳いでいる。今年中学1年生になった長男の孫が生まれた時から鯉幟を立てるようになったが、今では獣害対策、ことに鯉幟が立ててあるとシカが近寄らないそう。用水は、天沼川の上流から引水、その水路は棚田まで3・6㍎の長さがある。毎

年8戸の農家総出で4月上旬に「堰上げ」を行うが、中山間地域等直接支払の半分を活用、これまでに1・6^キの土水路を3面コンクリート張りの水路に改修したため、作業が楽になったと仰しやる。

棚田オーナー制度が山村の暮らしの華やぎの場に

兵庫畑を知るきっかけになった棚田オーナー制は、2003年に矢板21世紀農業農村活性化塾のグリーンツーリズム部会から話があり、立ち上げられた。会費2万3千円、共同作業による農業体験、玄米30^キ保証を条件にして市の農務課によってオーナーの募集が行われ、初年度5組、2010年度は会費が2万5千円に変更されてい



上／「残したい栃木の棚田21」の看板
中／オーナー制度の看板
下／幼児をおぶった婦人。集落には三世同居も

るが25組の応募があった。土地は野瀧さんが提供、2枚20^アに水稻2枚6^アにジャガイモが植え付けられている。オーナーは年4回、3月下旬にジャガイモ播き（イモ伏せのこと）、5月上旬に田植え、7月下旬にジャガイモ掘りと水田の草取り、10月上旬に稲刈りのためにやって来る。2009年度の田植えには、100名弱の都市住民が訪れ賑わったそうだ。

これを受け入れる地元側は、代表の野瀧家をはじめとする棚田を囲む8戸の農家。その夫婦16名がオーナーを世話するメンバーである。隣家の市議員を退き農業に従事する野瀧さんの兄73歳、測量会社を退職し、80^アの水田を耕作、カラオケと盆栽を趣味にする増村

さん73歳、土建会社にパートで勤める兼業農家の星野さん69歳の3名が野瀧さんより年上。他は60歳台2名、50歳台2名で、8戸のうち5戸は後継者と同居しており、集落に活気が感じられる。4回の農業体験日には、男性は農作業の指導に当たり、女性は食事づくりに励む。8戸は入植以来結束が強く、人力に頼る時代は結をつくり、共同作業を行ってきた伝統があり、現在でも畦塗機や動力噴霧器の共同利用で問題がおこることもなく、

燃料の満タン返しが忠実に守られている。代表が声をかけると全戸が結集、ものごとに当たるといふよき慣わしがある。棚田オーナー制も、代表の呼び掛けで始められたが皆のところが一つになり受け入れられている。経済的な恩恵は少ないオーナー制であるが、野瀧夫妻や増村夫妻、ともに都市住民との交流が楽しいと仰しやる。都市住民の来訪が変化の乏しい山村の暮らしに華やぎと潤いを与えているのだと思った。

※写真はいずれも2011年4月末に撮影



【公共交通】JR矢板駅から市営バス（泉・兵庫畑行）で約20分。

【自家用車】東北自動車道・矢板インター→県道30号→県道56号で約25分
（八方ヶ原県民の森の看板を目印に）

上勝棚田サミット直前レポート

(有)環境とまちづくり・徳島大学客員教授 澤田 俊明

サミットにむけた棚田調査が進行中!!

上勝町の棚田・八重地(やえじ)、市宇(いちう)、田野々(たのの)、そして檜原(かしはら)で、サミットにむけた棚田調査が急ピッチで進んでいます。重要文化的景観に選定された檜原の棚田では、ほぼ3年をかけて棚田調査が実施されているため、今回は調査が実施されていなかった他の3地区が中心。

土地利用調査、石積み調査、水路調査、景観調査、里道調査などの基礎調査が、各地区地元の方々の協力を得て続いています。遊休農地・転用地等も含まれますが、速報値で八重地455枚、市宇662枚、田野々1091枚、檜原786枚の棚田が確認できました。

聞き取り調査では、かつてあった水車の場所や種類、水路の名称、各地区に今も残る文化10年(1813年)実測絵図に描かれている民家の持ち主の名前、里道の現存状況などの情報が整理されつつあります。

調査の結果は「勉強会」と「住民用ガイドブック」に

現地調査と並行して、サミット受け入れ4地区棚田の住民の方々の棚田勉強会が行われています。4地区の合同勉強会が3回(サミットまでに2回、サミット終了後1回)、各地区での個別勉強会が4回(4地区で各1回)開



八重地の棚田・455枚(2011年6-7月調査)田、畑、果樹、いろどり、休耕地、山林等

サミットに向けた上勝中学校の棚田学習と農家



催予定です。これらの調査結果から、「地元住民用棚田ガイドブック」「4地区の棚田パンフレット」が作成され、サミット開催時はもちろん、サミット終了後、今後の新たな集落再生に活用される予定です。

サミットをきっかけに地域づくり、上勝サミットでの数値目標!!

上勝町棚田サミット実行委員会では、①全国の棚田地域の問題解決と元気づくり、②棚田資源を活用した持続的な地域づくり、をサミットの開催目的としています。そのため、数値目標を掲げ、サミットをきっかけにした地域づくりを目指しています。

10月に上勝でお待ちしています。笑顔で会いましょう!!

会員のひろば



会員の声募集!

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!「ご要望、感想やご質問でもOK!」(会員の声800字まで、会員レポート400字まで、写真も添えて)〒160-0003 東京都新宿区西新宿7-1-1816 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受付けています ↓ hiroba@tanada.or.jp

会員レポート

福島県飯館村を訪ねて

東京都練馬区 安井 一臣

去る7月下旬、福島県飯館村を訪ねた。幸いにしてこの村は、3・11大地震や津波では被災していない。だが、福島第一原発から30km以上離れているにもかかわらず、放射能の高濃度汚染によって、全村民が計画的避難を余儀なくされている。昨年まで稲作が続けられていた棚田も、人影のない民家の傍らで、夏草に埋まろうとしていた。

8月9日、長崎市で行われた平和祈念式典において、田上長崎市長が平和宣言の中で読み上げた、以下の言葉を沈黙考している。
『ノーマア・ヒバクシャ』を訴えてきた被爆国の私たちが、どうして再び放射能の恐怖に脅えることになってしまったのでしょうか



夏草に飲み込まれそうな棚田と民家

棚田散歩

三重県熊野市紀和町
丸山千枚田



虫送り行事

昔ほどの農村でも害虫退治と豊作を祈願して虫送り行事が行われていたという。ある先輩によれば「鈴鹿の田園地帯でもその風習は残っていて、子供達が松明かざしてあぜの廻りを歩く」そうだが、4年前に寄りそびれた丸山千枚田へ行くことになったのが、ちょうどその虫送りの日となった。

梅雨明け当日の太陽が容赦なく照りつける11時前、車から林道の展望台に降り立つと、眼前の山の中腹にはまさに千枚の棚田が広がっていた。棚田の登り降り汗を流したあとの昼食は、初代保存会長北富士夫氏が庭の湧水で設えた名物流しそうめんを舌鼓を打つ。北さんは4年前からの久恋の人、中島代表の取り持つ縁がやつと実ったのだ。

二人が午睡の間に、北さんが切り開いた通り峠の展望台へ登り、さらなる高みから千枚田を俯瞰するが、そこからもあの巨石が目立つ。そして宵闇とともに、田の枚数に因む1340もの灯りの中を、老若男女200名ばかりの虫送りの行列が提灯を手に「虫送り殿のお通りだ」とかけ声を唱えながら練り出した。この地こそが40年前、中島棚田学の原点となった場所だったとは、お二人の昔話から知るのだった。（東京都品川区 永瀬 孝）

編集部イチオシ! BOOK & Movie



2010年／68分
配給：ユナイテッドピープル株式会社
制作国：アメリカ、ニカラグア、フランス、ドイツ、イギリス、オーストラリア、インド、タイ、日本、中国
8月20日～渋谷アップリンク他、全国各地自主上映中！
上映スケジュール公式HPにて
www.shiawaseno.net

幸せの経済学

The Economics of Happiness

「グローバル化は、本当に人間を豊かに、幸せにしているのか？」こんな疑問があちこちで聞かれるようになりました。30年前まで外国人立入禁止だったヒマラヤの秘境で、消費文化に翻弄され、アイデンティティや伝統文化まで失ってしまったラダックの人々。彼らの姿をもとに、世界中の環境活動家たちがグローバル化の負の側面を指摘、本当の豊かさとは何か、を説いていきます。世界中で今広がっている「コミュニティ」の再構築、人と自然のつながりを取り戻す試みなどを取り上げ、持続可能で幸せな暮らしを作るヒントを与えてくれる映画。



著者：梅野秀和
¥2000円＋税
権歌書房
2011年4月
※お問い合わせ：
Tel.0952-52-3405
梅野秀和

梅野秀和写真集
だんだん田んぼの詩
～農の季節の物語～

やさしい曲線を描く大小の棚田、堅牢な城壁を思わせる石垣の棚田、黄金色に染まった棚田に咲く色鮮やかな真紅の彼岸花……。感動と共に出会った四季折々の棚田の姿は、今確実に減少の一途をたどる。石垣の一つ一つを積み上げた人々の苦勞を顧みると共に、美しい農の季節の風景を後世に残したいという願いを込めて撮影編集された、著者会心の写真集。数万カットの中から選ばぬかれたベストショットが語る、農のロマンあふれる物語。



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

「棚田とまもりびと」の購読申し込みを開始しました

2011年8月1日 報告 事務局

棚田ネットワークが3年がかりで進めてまいりました全国棚田保全団体調査結果をまとめた書籍「棚田とまもりびと」が出来あがり、申し込みの受付を開始しました。

全国30地域の保存団体を訪ね聞き取り調査したもので、棚田保全組織の現状や展望など詳細にわたり記載されています。カラーグラビアをふんだんに使ったB5版200Pで、棚田関係者はもとより広く農業関係者に購読いただければ幸いです。1部1,000円(送料別)で頒布しておりますので事務局までお申し込み下さい。



「棚トレ2011 in 佐渡島」を開催しました!

2011年7月16~18日 報告 高桑智雄

毎年、海の日(7月16日)の3連休に行われる佐渡ボランティアツアーが、今年は「棚トレ2011 in 佐渡島」と名称を新たに開催されました。参加者10名が、棚田作業中心の「がつつりコース」と食事作りが中心の「のんびりコース」に分かれて大活躍しました。今年の特徴は、完全自炊の合宿形式。25人程集まった地元の方との交流会も、すべて参加者で準備し、「のんびりコース」は実際にのんびりではありませんでした(笑)。

※詳細レポートは、「ブログ棚田に吹く風」をご覧ください。



死活問題

最近、認定NPO法人をめぐる法律の改正が行われました。主な改正点は、①認定NPO法人への移行の垣根が低くなった。②認定NPO法人に対する寄付金に、出す側・受け取る側双方に大きな特典が与えられた。これは制度発足以来の画期的な改正と云われています。

寄付する側の特典を想定すると、企業が認定NPO法人に100万円を寄付した場合、所得税から約40万円、条例適用団体であれば、さらに10万円、寄付額の実に約50%の優遇税制が受けられます。企業ばかりか個人が寄付した場合も同様です。これに比べ、一般NPO法人に寄付しても税制特典は改正後もゼロかそれに近い、微々たるものです。

今後は企業個人とも寄付先を認定NPO法人に絞っていくことになり、結果として一般NPO法人は取り残されることが予想されます。これは死活問題です。

移行条件のハードルは、3千円以上の寄付を100人以上から集める、または「総収入の2割以上を寄付金で占める」、認定NPO法人に相応しい組織運営、第三者を納得させ得る透明な会計処理等です。

当会も対応の検討を始めていますが、個人商店型の活動スタイルではこれらの条件をクリアするのはそう簡単ではありません。また広く会員の皆さんの協力なくしてクリアすることはできません。これから口角泡を飛ばす議論が必要になるかも知れませんが、道はありそうです。

差し当たり、必要条件を満たしていかなくても同等の扱いが受けられる「仮認定制度」の適用を目指すことになるのでしょうか。



今回のつぶやき人

事務局

Kamy(カミー)



栃木県茂木町

茂木プロジェクト

岩ノ作棚田のその後



稲作体験田



カワラナデシコ

5月14日に田植えした田んぼの稲の生育は順調です。田植えの時、私たちを出迎えてくれたオタマジャクシたちも、すっかり大人になりました。今（8月上旬現在）、田んぼの周りでは、カワラナデシコが花の最盛期を迎えています。この花は、かの清少納言も「花は撫子」と絶賛した野の花を代表する名花です。また、ワールドカップで大活躍した「なでしこジャパン」の名はこの花に由来しています。

今年の体験稲刈りは9月17日（土）に決定しました。アカトンボたちとの出会いの季節でもあります。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

栃木県の農産物は、相変わらず放射能汚染の風評被害に悩まされています。稲刈りの帰途「道の駅・もてぎ」で新鮮な野菜や果物を買うなど、風評被災地支援にもご協力よろしくお願ひいたします。（安井 一臣）

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

夏休み・こどもビオトープ観察会



8月3日（水）坂折棚田の棚田ビオトープにて「夏休み・こどもビオトープ観察会」を中野方町の公民館活動の一環として開催しました。講師は私、サポートとして岐阜県立国際園芸アカデミーの学生1名が参加してくれました。参加者は幼稚園生・小学生の合計10名とその保護者（すべて母親でした）。

まずは、なごみの家にて「棚田の生きものたち～ビオトープで生きものとふれあおう～」と題し、棚田の生物と棚田ビオトープについて説明。パワーポイントでビジュアル的なプレゼンテーションを心がけましたが、幼稚園年長ぐらいの男の子の感想は「こんなんじゃないと思った（説明はなく生物採集だけだと思った）」でした。ともあれ、棚田ビオトープで生物観察と採取を開始、暑かったので30分程度で終了。トノサマガエル、オタマジャクシ、サワガニ、ミヤマアカネ、バッタ類を採取、参加者みんなで振り返りをしました。

8月から9月にかけて坂折棚田で岐阜県立国際園芸アカデミーの学生が、日干しレンガを使った環境アート作品づくりをします。参加したい！など関心のある方ご一報ください。（相田 明）

Topics 今年の「棚田フェスティバル」準備進行中！

昨年の棚田フェスティバルの「棚田deファッションショー」



毎年11月に開かれている「東京棚田フェスティバル」。さて今年はどうなる？ どうする？ 先日、第一回の準備ミーティングを開きました。

毎年、まず悩むのが会場。これまでの5回の棚フェスは、全部会場が違います。できれば毎年同じ場所で開催して定着させたいのですが、予算その他の関係で、なかなか思うようにいきません。今年は昨年以上に財政逼迫。「去年は〇〇だったから、今年は◇◇◇はどうだろう？」などとアイデアを出しても、果たしてそれが可能な会場が見つかるのか？ 現在まだ会場探しの最中。皆さん、どこかお薦めの場所があったら、ぜひ教えてください。

企画内容の大枠としては、今のところ第一部・講演会、第二部・物産販売&PR、のような二部構成を考えています。また、今年は棚田米の紹介や試食などに特に重点を置き、各地の保存会から、地元のお水で炊いた自慢のお米をご紹介いただけたらいいな！と思っています。チームリーダーがスロースターターなのが難点ですが、これからスピードアップしていきます。皆さん、棚フェスチームにぜひお力添えを！

祝島 未来航海 プロジェクト

サージミヤワキは、電気柵を扱いながら、過去10年、牛を使った耕作放棄地の再生に取り組んできました。そして、2007年から、山口県の瀬戸内海の島・祝島で、豚による棚田再生プロジェクトを開始しました。

草食動物は、草を除去する作業に適しています。耕作放棄された棚田には「葛」がはびこり、根が地中長く伸びるため、除去するのは極めて多くの労力が必要ですが、豚にとっては最高の餌。喜んでツツカリと綺麗に整地してくれました。

畜産資材、獣害対策の
サージミヤワキ 株式会社

東京都品川区東五反田1-19-2
Tel. 03-3449-3711

www.surge-m.co.jp



豚が 棚田を 救う？

棚田の 応援団

わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい！」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか？一緒に考えませんか？ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう！

会員に
なると！

会報誌「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員
維持会員 1口1万円(1口以上)
一般会員 3,000円
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています！

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

編集部から

インターネットが盛んになり、SNSなどの個人の「つながり」が大きな力となる時代になりました。棚田ネットワークも、もともと「棚田」を想う個人(市民)の「つながり」を活動のパワーにしてきた団体ですが、最近、会員さんから会員同士の横のつながりが薄いとよく指摘されます。確かに、会員同士が集う場やウェブツールが少なく、事務局からの一方的な情報発信になっているのではないかと、事務局に「もも平」の午後1時〜6時オープンでは、ほとんどの方は来られませんが、ね。というわけで9月から毎週土曜日も営業することになりました！土曜日新宿に出てこられる方、ぜひ事務局へお寄りください。

ホームページのぞき見！

棚田ネットワークHPIは、主要検索サイトの「棚田」で、ほぼトップにランクする優良サイトです！内容も盛りだくさん、今年はウェブ独自企画も計画中乞うご期待。



www.tanada.or.jp

棚田に吹く風

2011年9月号 Vol.78

発行  NPO法人
棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp
郵便振替口座 : 00100-7-151565